

東芝深谷 OB会会報

[第9号]

OB会事務局
048(574)2014

満十周年を迎えて

会長 渋谷昇

当OB会も平成三年三月発
足以来早や十周年を迎えるこ
とになりました。

その活動は、前島津会長の
発案により年一回の総会で終
わることなく、同好会やボラ
ンティア活動も取り入れ、他
工場のOB会にない特色を
持った会に育成して来まし
た。

ここで十年間の活動内容を
簡単に報告致します。

一、会員数 一一〇名→五二〇
名 尚退会四四名、物故者
二三名

二、同好会数 六→一四同好会
にゴルフ同好会は百名以
上。インターネット同好会
はメールが飛びかっっていま
す。述参加人員は五百名を
越えております。

三、会報の発行
平成九年より年二回が定着
致しました。

四、ボランティア活動

(一) 東芝の夏祭りに参加し皆
様方よりお預りした品物

を各同好会持ち廻りで、
ガラクタ市、ビンゴゲー
ム等で買却し、その一部
を福祉協議会へ寄付して
おります。その結果平成
十二年十一月同協議会よ
り感謝状をいただきました。

(二) 深谷GCCへ参加、唐
沢川の清掃、駅前通り
の草花の植替えも実施
しました。尚新しい
ハッピを作り参加時の
OB会をPRしていま
す。

五、地域会員とのコミュニ
ケーションを計るため通
信物の手渡し配布を実施
(全体の六八%) 通信費
を六〇%削減することが
出来、一部同好会への援
助を始めました。

六、毎月、月始めのトキワク
ラブ居酒屋での懇親会は
当初四、五名から十六名
平均となつて来ました。
ぜひ皆様方の参加をお願
い致します。

七、反省としては、いまだ三
十%近い方々が未加入で
す。これからも参加をよ
びかけて行きます。

八、本年度は満十周年記念行
事として八十才以上の会
員六名の方に傘寿賞をお
送り致しました。いづれ
も丁寧なお礼状をいただ
きました。

以上ですが、今後共皆様方
の暖かい御支援、御援助を賜
わります様お願い致すと共に
皆様方がますます御健勝であ
ることを祈念いたします。

OB会報によせて

東芝深谷工場 工場長 小倉 庸

深谷OB会が発足してから十周年を迎え、お慶び申し上げます。七月に開催されましたOB会の総会も、歴代工場長を始め、多くの先輩方の出席をいただき盛会のうちに行われました。私は本年一月に東芝大分工場長から深谷工場長に異動してまいりました。深谷OB会の方々には余り面識がありませんでしたが、皆様には大変暖かく接していただき感激いたしました。

さて、二一世紀になり、我々を取り巻く事業環境は大変厳しいものになっております。特に、パソコン市況の大幅な落ち込みは、その表示装置であるCDTや大型液晶の販売に多大な影響を与えています。CDTは供給過剰状態や安価な海外製品により大きくその売価を下落させており、もはや国内では競争力のある物を作る事が出来なくなってきました。これにより来年2月をもって国内生産を終息するという、大きな経営判断を東芝はいたしました。

歴史と伝統のあるブラウン管

事業がこの深谷の地から消えていく事に深い寂しさを覚えられます。OBの方も多いことと思いますが、会社としましては苦衷の決断である事を是非ご理解いただきたいと思ひます。

液晶も価格の下落で苦境にあることはCDTと同じですが、将来性があります。特に、東芝の低温ポリシリコンTFT液晶は高精細で、高信頼性です。最近では携帯電話のC415T（東芝製）やF503ISなどに使われ大好評を博しています。更には、最新の#601M2がフル稼働状態に入りました。これにより低温ポリシリコンTFT液晶の生産能力は飛躍的に拡大しました。

深谷工場・深谷映像工場は共同して「深谷ルネッサンス運動」を始めています。これはM12001運動をエンジンとして全員参加で新しい組織文化を作ろうという工場運動です。意識改革事業構造改革とをセットにして利益を出し続ける工場への変革を図っていくものです。OB会の皆様には、今後とも深谷工場への絶大なるご支援をお願いいたします。

OB会設立時の思い出

元総務部長 吉田 静生

平成二年七月に深谷工場に着任しました時、前任者からの引継ぎ事項の一つに、今年は深谷工場創立二十五周年に当たるのでこれを機にOB会を設立する事があり、発起人もすでに決まっていました。発起人を引き受けてくださった方々は現会長の渋谷さんを始め小高、佐々木、小澤、柴芝、遠藤及び物故された近藤さんでした。

発起人会で何回か打ち合わせを行い、組織や運営方法等は他工場の例を参考にしながら決めましたが、難題は会長をどなたにお願いするかでした。候補基準としては部長クラスで深谷創立時の苦労を経験し、かつ（深）、（深ブ）両工場に面識が広く、OB会活動に情熱を持って取り組んで頂ける方という事で最終的に（深）の生産部長を勤められた島津さんに白羽の矢が立ちました。しかしこればかりは発起人会で勝手に決めることは出来ず、ご本人の了解が必要ですのでその交渉役を小澤さんをお願いすることとしました。

まず電話で趣旨を説明しお願

いしたのですが答えは予想通りNOでした。そこで東京・世田谷のご自宅にまで押しかけて説得してもらったのですが、島津さんは高齢である事、体調が万全でない事、深谷から離れている事に加え、近々さらに遠い奥多摩へ引越する予定で何かと忙しい事を理由に固辞されました。しかし諦めずにその後何回も電話を入れてもらい、粘り強くお願いした結果、ついに前向きな感触が得られたのでした。すぐには引越されたばかりの奥多摩へ小澤さん、近藤さん、総務の本間課長の三人で行ってもらいました。その時島津さんからは、一期だけなら引き受けてもよいが、自分の考えでは工場依存型でなく、地域に密着して日常的に自主活動するようなOB会にしたいとの話がありました。

こうしてようやく設立総会を開く事ができました。

あれから十年、島津さんの構想通り、現在多くの同好会が活発に活動し、又地域のボランティア活動に参加するなどOB会が大きく発展していることはご同慶の至りです。

OB会事務局として

総務安全保健担当グループ長

竹下 史仁

東芝深谷OB会会員の皆様におかれましては、創立10周年の記念すべき日を迎えられることを心からお喜び申し上げます。また、この創立10周年の東芝深谷OB会会報に寄稿させていただきます、誠にありがとうございます。

さて、一口に10年と申しますが、それは平坦な歲月ではなく、山あり谷ありで、この間幹事や会員の皆様の精進や努力には並々ならぬものがあつたと推察いたします。多くの苦難を乗り越え今日の発展を迎えられたことにお祝い申し上げます。しかし10年は、まだまだ子供です。今後20周年、50周年と繁栄のときを迎えられることを祈念いたします。

この深谷に工場が設立されて、はや40年が経過しようとしています。が、(深)(深映)とも、かつてない大きな変化の波にさらされております。

すでにご承知のとおり、CDTの終息、映像メディア関係技術者の(青)移転、次世代電池事業の(深)集結、液晶事業のM社との統合新会社設立と今期このような大きな事業構造変革が行われます。この大きな変化の波を受け入れるべく、生き残りをかけて(深)(深映)両工場で風土改革醸成運動

「ルネッサンス運動」を展開しております。この運動は、(深)(深映)両工場実施されていることも両工場始まって以来ですが、以前当社の利益を支えていた輝きのあつた時代のように、輝きを取り戻し、また将来にわたって利益を出しつつける工場へ変革するために、工場風土を変革しようというもので、現在「挨拶運動」、「工場美化運動」等を行っており、各部門においても部門独自の運動を行っております。今後も諸施策を実施する予定でございますので、OB会会員の皆様におかれましては、変わらぬご指導ご鞭撻をお願いいたします。

また、今後とも微力ではございますが、事務局としてOB会活動をサポートさせていただきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

カラオケ同好会雑感

富田 忠幸

月一回、ワークピアに集う自称男性歌手の面々。残念ながら女性歌手はいない。しかし、酒を味わい小舞台で歌う発表会(?)もあり楽しみの同好会だ。

二十数名の会員、各人個性ある歌唱での勉強会、個性を活かす教室にはクラス破壊もイジメもなく、明るく和やかだ。

お互いに歌い、聞き、若き日を懐かしみ、新曲へ挑戦する。歳を感じさせぬ活気溢れる教室である。

カラオケ「演歌ではないが、同好会メンバーの顔を思い浮かべると、やはり演歌中心の選曲であることが頷ける。流行歌(はやりうた)という曲があるが、「流行歌」という単語は今、なじみやすい。若き時代は流行歌についてゆけたが、今の流行歌で対応できるのは演歌だけ。私にはカラオケ「演歌だ。

演歌歌手には民謡出身者が多いが、当同好会も民謡同好会のメンバーが抜群の歌唱力と味を持ち、本物歌手のリサイタルに行かずとも楽しく聞かせてもらえる。そして共に歌い、自分のレパートリー拡大への勉強の場にもなる。

各メンバーは予習、復習をして出席するが、不真面目な私は何もせずに出席することが多く反省している。数十年振りに楽譜の記号を思い出し、歌詞に心配りして歌う。そして自習もしなくては。

退職、子供達の巣立ち、そして妻に先立たれた今、大声を出すこと、長時間対話することがなくなつた。そんな日々の生活だ。姿勢正しく思いきり声を出し、大きく深呼吸して歌うカラオケ、世界的文化になつたカラオケ、健康的に、精神的に大変好ましく、更に若さの保持向上(?)にも効果がある。

とのこと。これを信じ積極的に歌いたい。実力ある同好会歌手達とは他道場へも挑戦している。私はそこまでは無理だが落ち零れぬよう楽しく時を過ごすべく参加したい。

毎月、楽しい場を計画していただいております幹事の方々に感謝致します。これからも宜しくお願い致します。

趣味と交流の場を

広げよう!!

ビデオ同好会 中島 祐三郎

東芝深谷OB会も発足から早くも一〇年の歳月を迎えるにあたり、その母体である深谷の事業所(工場)は過去には幾多の変遷を経て、大きく発展、前進して来たのだが、近年に於いては時代の急激な変化やニーズの多様化、そして急速なる技術革新にと企業経営も従来とは大きく様変わりした。私たちの日常生活に密接に関わりのある生活用品、ことさら電化製品や情報機器関連の科学技術の進歩はまさに日進月歩を超えた時間刻みの進歩と言つても過言ではなく、一時でもその変化に関心事や勉強を怠るとその機能や性能、付加価値までも全く判らなくなる程の高度化、高速化した時代である。

私達ビデオ同好会が持ち歩くビ

デオカメラにしても例外でなく2
3年前の機種と現行機種とでは
その性能、画質、操作面等の向上
著しく格段の差を感じる。

携帯電話もアナログの第一世代
からデジタルの第二世代そして動
画像通信の第三世代に移行しつつ
ある現在、ビデオカメラも今の
テープ録画方式が今後は全く別方
式に変わることも予想される。

いずれにせよビデオ撮影は動画
としての楽しみをフルに味わえる
ものであり、生活のエンジョイに
最も役立つ機器であり手段であ
る。子供の誕生から成長の記録、
旅行での思い出など永久保存がで
きる極くごく手軽に楽しめて生活
に密着した趣味となれます。

デジカメは今の流行です。でも
ビデオ映像の静止画もパソコンに
取り込めます。技術は日毎に進
み、応用や活用の範囲は広がって
います。

想像や創作を楽しみ、そして情
報交換の場としてビデオ同好会に
入会してみませんか！当会は常時
会員を募集しています。

OB会創立十周年を迎えて

小旅行同好会 岩佐 三男

東芝深谷OB会創立十周年の節
目に当たりOB会創立に御人力下
されました初代会長、並びに役員
関係者の皆様に心から感謝の意を

表します。

OB会創立十周年に当たり、十
年の歩みと思出を振り返りながら
僭越では有りますが、今の度寄稿
させて戴く事に成りました。

十年の思出を振り返ると定年を
迎えた時、同僚と共に苦楽を共に
した職場を退くと言う事は、同僚
や友人等の絆が無くなる様な心の
葛藤は誰しも持たれたのでは無い
でしょうか、この様な心の空間を
癒す場としてOBの皆さんが一同
に会し、親交を暖め情報の交換等
が行なえる場を作る事が必要であ
り、深谷OB会が創立されたもの
と理解して居ります。

OB会の年間行事として年一回
の総会を開き会社の夏祭りを楽し
みながら互いに語らい、健康を確
かめ励まし合う事はOB会の役割
として今後益々の発展と期待が望
まれます。

OB会は平成五年八月総会に於
いて会員相互の交流を図る事を目
的とした同好会の発足が決まり当
時発足した同好会は九グループで
あったと思います。会員の希望す
る趣味の同好会に入会し趣味の仲
間として、お互いに情報交換を行
ない親睦を図る事が出来るものと
して今日に至ったものと思ってい
ます。

小旅行同好会は平成五年十月に
発足し私と、大手修作氏が同好会
の世話役として八年間、同好会の
企画をさせて戴いて居ります。

小旅行同好会は会員の皆様が職
場に於て、又、家庭に於ては、奥
様が長い間ご苦勞を共にして歩い
て来た人生の道程の中で憩いのひ
と時を、楽しめる旅を念頭に、年
二回低料金で近県各地に夫婦同伴
で旅行が出来る様に、企画をして
実施して参りました。

同好会の旅も回を重ねて十月の
旅行で第十六回を迎え、これもひ
とえに皆様の御協力に依るものと
心から感謝を申し上げます、今後
共皆様ご同伴で旅行が楽しめる事
をご希望ご期待申し上げます。

将棋同好会だより

将棋に思うこと

門倉 正一郎

OB会発足十周年おめでとうご
ざいます。将棋同好会の活動も活
発に動いて五年が経ち、さらに充
実し、会員も増加しております。
最近将棋を扱うマスコミの分野も
広がり、テレビ、新聞、週刊誌な
ど、日常で将棋する機会が多く
なりました。これは愛好者の増加を促
すと共に、棋力の向上にも役立っ
ている。同じ棋力同志がいつも変
わらない相手と指すと変化に乏し
くなる。だから月例会では、実力
別クラス対局を行い豊富な実戦で
「生きた教材」を得ることで計り
知れない棋力向上に繋がっている。
月例会は昼食も兼ねて団欒の場

もありお互いの情報知識を得る交
換の機会にもなっている。

既発行の会報での同好会内容も
便りで紹介している。近頃思
うことなど記してみたい。将棋対
局はよく思い出の一局として取り
あげられるのは「会心の勝負」が
多いが、このような将棋は上達の
糧とするが滋養分が少ない。

自他を問わず、敗局の苦汁にこ
そ貴重な教訓がある。職を去り少
し落ち込み一時的な敗局と同じ気
持ちは味あうこともあり、「敗局
から学ぶ」という将棋でのプロセ
スとも似ており、自分の気持ちに
負けてないか。なぜ負けたか。敗
局にこだわるな。負けを謙虚に認
める。と考へさせられる。将棋も
ある段階に達したら、自分の将棋
を指す強い気持ちが必要で、負け
を克服する力を生みだす毎日かも
しれない。会員の中でも有段者の
数は計り知れず、棋力も飛躍的に
向上している。同好会の目標
として、新会員の獲得、対外対局
として地域、職域への挑戦対局、
将棋連盟の対局見学、将棋を楽し
む初心者への勉強会開催、棋具の
充実等を掲げ会員参加の総会（一
泊二日対局年一回）に図り将棋同
好会をますます発展させていきた
い。

趣味としての将棋大好き人間を
募ります。将棋は老化する気持ち
の解消となり、思考力の衰えを防
ぐ恰好の機会でもあり、活力源と
して皆さんの入会を望みます。

囲碁同好会

遠藤 保明

川松正長さんと二人で幹事をお引き受けして、まだ一年も経っていませんが、その間毎月二回の定例会と春の一泊研修会を開催しました。定例会には毎回十人前後の会員が参加します。雰囲気としては和気あいあいといったところでしょうか、皆さん囲碁を楽しみ、かつ、いろいろと情報交換をしています。かと言って囲碁をいい加減に打っている訳ではなく、ルールに従って、ハンデを決めたり勝敗により持ち点が増減するため、対局そのものは真剣です。

一方、研修会は埼玉県の公共宿泊施設を利用し、リーグ戦で試合を行って順位を決めます。この対局でもハンデを付けるので、皆が公平な立場で対局できます。研修会は年二回、春と秋に開催することになっています。次回は今年の十一月に予定していて、皆さん楽しみにしているところです。

さて、囲碁同好会の状況について簡単にご紹介しましたが、あとは雑談のような内容で与えられたスペースを埋めたいと思います。

囲碁の歴史は非常に古く、紀元前十一世紀の頃に中国で始まったという説と、インドに始まり中国を経て日本に伝わったという説が

ある。いずれにしろ、三千年以上も前から人々に親しまれてきただけに、その面白さと奥の深さは他のゲームに劣らないものがある。

しかし、勝敗の判定は極めて単純で、日本棋院の規約でも「地の多少を争うことを目的として」とあるように、いわば陣取り合戦である。ただ、これは勝敗を決めるための結果判定であって、これが囲碁のすべてではなく、その過程が面白いのである。地を囲うような打ち方だけでは負けてしまう。むしろ、相手の石を囲って小さく生かすように打つ方が、結果的には地が広くなる。そのために布石や定石が重要になってくる。

囲碁について偉そうにに講釈できる柄ではないので、これ以上は申しませんが最後に川柳を一つご紹介しておきます。（出典は「碁裡夢中・囲碁いろは川柳」）
「春ですな 囲碁でも始めてみませんか」



山野と盆栽

石井 忠孝

良い鉢植えや盆栽を鑑賞すると、山野の木々が若葉、青葉、紅葉、落葉へと変化し、花を咲かせ実らせながら、自然を美しく彩る風景を連想します。特に岩肌を這いながら、風雪に耐える松の逞しさには、思わずカメラを向けてしまいます。

どんな植物でも盆栽風なら、私は好きです。



見よう見真似ながら植替え、日当たり場所選び、剪定、肥料や水やり、防虫など、どれもタイミングと意味があつて、手入れを飽きません。毎日僅かずつ成長し整っていくのを、見るだけで楽しいのですから。
やがて、それらが期待の花や樹枝を見せてくれたときは格別うれしいですね。
あの美しい山野が偲ばれます。

軽ハイキング同好会

沼田 信之

まづはOB会十周年、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

さて、我がハイキング同好会の記録を見ると、九名、十三名、十七名となり、現在三十名を超えるに至った。行先も寄居、波久礼方面から、鬼石、鎌倉等を歩き、尾瀬から谷川岳（雨天変更）えも挑戦した。これからも安全第一に考え、コースを選びながら、楽しい花の旅、山の旅を行っていきいたいと思っています。

昨年迄は、会員の自家用車を提供を受け行っていたが、参加者が十名、十五名と増すにつれ車も二台、三台と増加した。今般の交通

事情や登山後の運転者の疲労や気苦労を考え、今年から公共の交通機関を使用する事にした。

春のハイキングで初めて、貸切のマイクロバスを利用して、浅間隠山を計画、十九名の参加で好評だった。ただ最大の悩みは、参加人員と天候である。

バスは予約で雨天決行である。雨の時、皆さんで一日をどう楽しく過ごすかである。人員が集まらないと各人の負担増につながるので、人集めがひと苦労である。

ハイキングの未経験者では、一般コースを云っても、心配なので一緒に同行した事のある、山好きな知人を数人呼びかけをして人員の補充をしている。会員の方々は今後共、積極的に参加をお願い致します。

今後は、春、秋の二回拘わらず一月初詣で七福神めぐりと、季節の良い時、秩父札所を、車でなく徒歩で廻って見たらどうでしょうか？又青春に帰り三浦半島（城ヶ島）箱根旧道等ウオキングして見てはどうでしょうか。

前回提案の名札の件ですが、名札ケースを用意しましたので、各人記入して参加時着けて下さい。参加者名簿当日お渡し致します。最後に同好会の皆様がお氣に入りの場所、皆さんに見せたい所等を提案し、御案内して頂きたいと思

いますので、宜しくお願い致します。

同好会よりのお知らせ

今后二年間会費未納入の時は休会扱いと致します。



思い出のさつき

植え替え教室

草花盆栽同好会 田中 清隆

草花盆栽同好会の年間行事の一つとして会員の自宅訪問を行い日頃の手入れの成果を確認しあっています。2年前の平成11年には坂本鉄男さんの家を訪問して驚いたことには、数えきれない程の臍月が有りよくもこれだけ育てたも

のと感心しました。300数鉢は有ったと思います。翌年の平成12年には会員の教材用として臍月の盆栽を提供してもらい坂本さん自身も講師となり、20名が参加して臍月 植え替え教室を行いました。当時は思いもしませんでした。今年の4月に故人となられた坂本鉄男さんお遺品が会員の手で丹精に育てられています。このような出会いは同好会の会員であつたからと思つています。年金生活者の一人として生活の句読点の糧にしている今では同好会の会員であることを満喫しています。さらに家内と二人で参加できるグランドゴルフ、社交ダンス、そして草花盆栽同好会に入会して張りのある日々を過ごしています。

傘寿表彰

東芝深谷OB会員の方々で八十歳を迎えられた方がおられるようになりました。

永年東芝深谷工場並びにOB会発展に寄与されました功績を今総会より、傘寿賞として表彰状よ記念品を贈呈させていただきますことにさせていただきます。

生憎総会が猛暑の最中でしたのでご参会いただけませんでした。が、ご自宅に送らせていただきましたところ、皆様より丁寧な礼状並びに電話を頂きましたのでご報告させていただきます。

表彰者（敬称略）

田中 誠

島津 治郎

松垣 大輔

土田 順一

清水 高一

森山 正孝

●松川忠司さんが十三年七月

逝去されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

編集委員

幹事

小林 哲嗣

〃

斉藤 登